



第4号のおたる健康づくり通信では、小樽市のがん検診の一つ“胃がん検診”と“感染”についてお話しします。

胃がんの罹患（りかん）率は40歳代後半以降に高くなります。全がんの中で胃がんの死亡数は男性が第2位、女性が第3位となっており、胃がんによって多くの方が亡くなっています。早期胃がんの多くは、検診によって発見されています。



胃がんの症状について

早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。代表的な症状は、胃の痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などがありますが、これらは胃がん特有の症状ではなく、胃炎や胃潰瘍の場合でも起こります。

胃がんの原因について

喫煙や食生活などの生活習慣や、ヘリコバクター・ピロリ菌の持続感染などが胃がん発生のリスクを高めると言われています。食生活については、塩分の多い食品の過剰摂取や、野菜、果物の摂取不足が指摘されています。

胃がん検診について

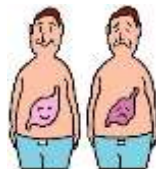
対象：市内に居住し勤務先や加入する健康保険で検診を受ける機会のない40歳以上の方（内視鏡検査は50歳以上）※右枠内参照

内容：バリウムを飲んで胃部X線検査

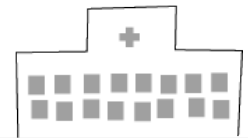
若しくは、胃カメラによる胃部内視鏡検査

回数・料金：バリウム検査は年1回・1,000円

内視鏡検査は2年に1回・3,000円



胃がん検診 市内指定医療機関一覧(通年受診可)



医療機関名	電話番号	胃がん検診		医療機関名	電話番号	胃がん検診	
		バリウム	内視鏡			バリウム	内視鏡
いそがい内科クリニック	51-5888		○	済生会小樽病院	25-4321		◎
大橋内科胃腸科クリニック	22-7089	○	○	札幌病院	62-5851	○	◎
小樽済済会病院	24-0325	○	◎	せのた内科クリニック	27-7171		○
小樽協会病院	23-6234		◎	高橋医院	26-4131		◎
小樽市立病院	25-1211		◎	なつ胃腸科内科クリニック	31-3131		◎
小野内科医院	22-5792		◎	東小樽病院	54-7111		○

※胃がん検診(内視鏡検査)の検査方法:◎経口・経鼻、○経口

※検診のお問合せ・申込みは直接医療機関に御連絡ください。

※受診場所や受診方法は、毎月広報でもお知らせしていますので、御確認ください。

NEW!!

内視鏡検査が始まりました!

平成30年度から小樽市のがん検診対象者のうち、

50歳以上の方は2年に1回、胃がん検診(内視鏡検査)

を受診できるようになりました。

《平成30年度の対象者》

・50歳以上で、かつ、当年度内に満年齢で偶数年齢になる(予定)の方

※ 下表に該当の方は平成30年度当初から受診できます。

ただし、昭和43年4月1日～昭和44年3月31日生れの方は、満50歳の誕生日～平成31年3月31日までの期間となります。

(対象者早見表)

誕生日	年齢	誕生日	年齢	誕生日	年齢	誕生日	年齢
43年4/1～ 44年3/31	50	29年4/1～ 30年3/31	64	15年4/1～ 16年3/31	78	※ 15年4/1～ 2年3/31	92
41年4/1～ 42年3/31	52	27年4/1～ 28年3/31	66	13年4/1～ 14年3/31	80	13年4/1～ 14年3/31	94
39年4/1～ 40年3/31	54	25年4/1～ 26年3/31	68	11年4/1～ 12年3/31	82	11年4/1～ 12年3/31	96
昭和 37年4/1～ 38年3/31	56	昭和 23年4/1～ 24年3/31	70	昭和 9年4/1～ 10年3/31	84	大正 9年4/1～ 10年3/31	98
35年4/1～ 36年3/31	58	21年4/1～ 22年3/31	72	7年4/1～ 8年3/31	86	7年4/1～ 8年3/31	100
33年4/1～ 34年3/31	60	19年4/1～ 20年3/31	74	5年4/1～ 6年3/31	88	※ 大正15年4/1～ 昭和2年3/31	
31年4/1～ 32年3/31	62	17年4/1～ 18年3/31	76	3年4/1～ 4年3/31	90		

《受診間隔》 2年に1回

《受診の期限》 平成30年4月1日～平成31年3月31日まで

《指定医療機関》 ・指定医療機関は上記を御覧ください。(小樽市内)

《その他》 ・年度内に内視鏡検査とバリウム検査の両方を受けることはできません。
・バリウム検査を御希望の場合は従来どおり、40歳以上の方を対象に1年に1回の間隔で受診できます。

細菌やウイルスの感染予防や早期発見でがん予防！

感染は日本人のがんの原因として、女性では1番、男性では喫煙に次いで2番目に多く、感染はがんの大きな原因です。

がんのリスクを上げることが“確実”となっている菌とウイルスは、ヘリコバクター・ピロリ菌（ピロリ菌）、ヒトパピローマウイルス（HPV）、B型・C型肝炎ウイルスがあります。いずれの場合も、感染したら必ずがんになるわけではありません。それぞれの感染の状況に応じた対応をとることで、がんを防ぐことにつながります。



ピロリ菌と胃がん



ピロリ菌感染は胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんなどの要因になることがわかっています。ピロリ菌感染の多くは、免疫機能が十分に発達していない幼児期に、経口的に感染すると考えられています。

日本では、感染率が年代によって大きな差がありますが、50歳代以上は2人に1人以上がピロリ菌に感染していると言われています。ピロリ菌に感染すると長い年月をかけて、萎縮性胃炎になり、胃がんになる危険性が4～10倍に増加すると言われています。

ピロリ菌感染と喫煙、高塩分食品のとりすぎや、野菜・果物の摂取不足などの生活習慣が影響し、胃がんにつながると考えられています。

ピロリ菌検査と除菌

ピロリ菌の検査方法は呼気検査や採血、便検査など複数あります。また、平成25年2月から、胃内視鏡検査で「ピロリ菌感染胃炎」と診断された方は、健康保険を使ってピロリ菌の検査と治療を受けることができます。

小樽市の胃がん検診では、ピロリ菌感染の所見も判定されません。胃がん検診の対象年齢の方は、胃がん検診を受けることが大切です。



HPVと子宮頸がん



HPVは女性の約80%が生涯のうちに一度は感染すると言われるほど、ごくありふれたウイルスです。HPVは直接的な性交がなくても、口や手を介して感染し、HPVに感染しても症状はありません。また、80～90%は免疫作用の働きで、自然に身体から消えますが、ウイルスが持続的に残ることがあります。HPVの持続感染のリスクを高めるのが、免疫力の低下、喫煙、クラミジア感染による炎症などです。禁煙と性感染症の予防対策が大切です。

子宮頸がんは、定期的な子宮頸がん検診を受けることで、がんになる前に発見、治療することができます。

HPV予防ワクチン

HPVの感染を防ぐワクチンがありますが、このウイルスは性行為によって感染するため、思春期以前にワクチンを接種することが有効です。無料の定期接種の対象は小6～高1年生相当の女子となっています。詳しくは保健所へお問合せください。



肝炎ウイルスと肝臓がん



B型又はC型肝炎ウイルスに持続感染していると、肝臓がんになるリスクが非常に高くなります。主に血液からの感染で、出産時の母子感染、輸血や血液製剤の使用、まだ感染リスクが明らかでなかった時代の医療行為などがあります。B型肝炎ウイルスは性行為によっても感染します。

知らないうちに感染している可能性もありますので、肝炎ウイルス検査を受けたことがない方は、感染がないかを一度検査をすることをお勧めします。小樽市では、過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方を対象に、無料でB型又はC型肝炎ウイルス検査を行っています。

感染している場合は、ウイルス駆除や肝臓の炎症を抑える治療などを、専門医と相談しながらすることが大切です。

* この通信に関する問合せは 【担当】 小樽市保健所健康増進課
【連絡先】 22-3110